



東地区に関わる写真を紹介します！

～今回は『春の訪れ』をテーマにした写真を紹介します♪～



桜（雷電神社）



チューリップと桜（滝川公園）



菜の花（東公民館）



桜（東小学校）



梅の花とメジロ（箱田町）



しだれ梅（大徳寺）



桜（新田小学校）



ユキヤナギ（滝川）



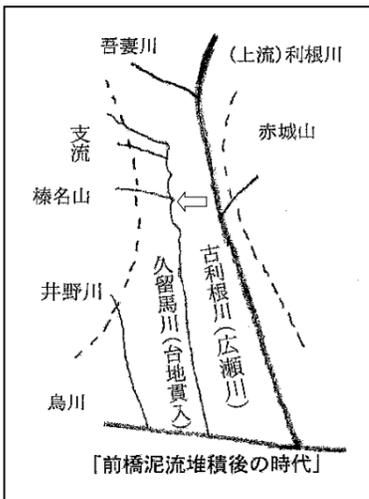
ふきのとう（稲荷新田町）



モクレン（大利根小学校）

※提供：東カメラ愛好会

※写真をカラーで見ることができます→



東地区の東部を流れる利根川について紹介したいと思います。

利根川は細い川だった ～変流の過程が明らかに～

戦国時代の初期、前橋の町の東を流れていた広瀬川が、町の西を流れる久留馬川を合流して利根川への変身を始めたのです。

利根川西地域には利根川の古い伝えが残っていました。

①石倉城の石碑 久留馬川に広瀬川の水が流れ込んで城は洪水の被害を受けたと。

②上新田町の雷電神社の石碑 笹川(実は久留馬川)の流れがどんどん大きくなっていったと。

③末風村は、利根の支流(実は久留馬川)のほとりにあったと。

榛名山東麓からの小利根川久留馬川が地域の東を流れていました。その流れが徐々に大きくなって利根川になっていったことを示唆していた。久留馬川の情報によって明らかになった利根川変流の歴史をお伝えします。

『利根川変流の歴史』 要旨

現利根川は、前橋町東から西に移動した利根川(広瀬川)が西の小流久留馬川を合流して形成した大河だったので。久留馬川は、榛名山東麓から流れ出る支流が合流した河川でした。利根川は、久留馬川とほぼ同じ所を流れていました。

変流の経緯を簡単に記します。

(1)二万年余り前に、浅間山の山体崩壊による泥流堆積物が吾妻川経由で、付近一帯に約十五mの厚さに堆積し、前橋・高崎・伊勢崎地域に及ぶ広大な前橋台地が形成されました。台地東部では古利根川が、西部では久留馬川が鳥川までの流路を作りました。

(2)沼田地域に形成されていた巨大な沼田湖が決壊して、大量の洪水流が台地東部の泥流堆積物を洗い流したのです。続いて沼田湖底に堆積していた大量の砂礫が流れ出し台地東部の谷を砂で埋めもどして広瀬川低地帯が形成されたのです。

(3)広瀬川流域へ砂礫の堆積が続き、河床が上昇し広瀬川は西へ移動を始めます。敷島付近で泥流堆積物を越えて久留馬川に流れ込み、新利根川は、前橋台地に貫入したのでした。久留馬川への合流は、現在の県庁付近から始まったのです。

(4)狭い久留馬川に広瀬川の水が流れ込んだので水害が顕著になりました。石倉城、前橋城への水害が有名です。水路が拡大されるまで続きました。

(5)天明三年(一七八三年)浅間山の噴火による泥流が流れ込んで広瀬川は断流し、利根川は増勢して川幅を更に拡大したのでした。

(6)川原島(現川原町)西に最後まで残った久留馬川が合流され利根川変流は全流域で完結し、現利根川が出来上がったのです。明治元年(一八六八年)のことでした。現在の利根川は、このようにして形成されたと思われる。

詳しくは、『利根川変流の歴史』
―沼田湖決壊・久留馬川―
(倉島繁治著)を参照してください。
県立図書館、市立図書館、東分館、
県立文書館で閲覧可能です。

館報編集委員 倉島 繁治

東市民サービスセンター（東公民館） 職員人事異動

◆「お世話になりました」
副主幹 猪熊 美菜子
(宮城公民館へ異動)

専門員 川田 信也
(職員課へ異動)

◇「よろしくお願ひします」
副所長・副館長 高橋 之彦
(議会事務局から異動)

主任 野村 明子
(こども支援課から異動)

